

謹賀新年



(この牛は、松下 厚さん(富草門原)が家族のように思っている牛です。)
 「今年は牛のようにモウ少し穏やかな安定した年になることを願います。時々来てくれる孫たちや近所の子供さんに元気をもたらしています。モウひとふんばりだな。」(牛舎にて 松下 厚さん談)



令和3年1月1日

発行人●阿南町公民館編集部 編集人●公民館報編集委員会 印刷所●飯田共同印刷株式会社
 連絡●〒399-1511 東條58-1 TEL 22-2270 FAX 22-2287 E-mail:kyouiku@town.anan.nagano.jp

あなん

もくじ

- P1 表紙 遊歩道
- P2 わが町を盛り上げよう
- P3 大陸流転
- P4・5 短歌と故田嶋大三さんと新野短歌会
- P6 フレッシュギャル、私の趣味・自慢、私の夢
- P7 お知らせ
- P8 あの人この人、うちのホープ、編集後記

遊歩道

あけましておめでとうございます。2021年丑年です。「丑」は中国で生まれた漢字で「からむ」という意味があり、芽が種子の中で伸びることができない状態を表しているそうです。後に「牛」の意味が与えられました。牛は大変な農業を地道に最後まで手伝ってくれる様子から、「我慢」(耐える)・「発展」の前触れ(芽が出る)を表す年になると言われています。

昨年はコロナが蔓延する中で、普通の生活がいかに大切かを思い知らされました。

最近読んだ本「小暮さんちのおいしいカタチ」(新櫛樹著)では、3歳の娘と夫婦の家族で新聞記者の妻の社会復帰初仕事で、1年間単身赴任をして限界集落の取材をして記事を書くこと。妻を尊重した夫は育児休業を取得して主夫となり娘と2人の生活が始まる。夫は娘の目線を通して初めての人生観を経験していく。夫の目線がとても優しく周囲の人たちも巻き込んで心が温かくなりました。普通の生活の中で大切な物を見つけたいですね。

わが町を盛り上げよう

興亜エレクトロニクス株式会社
地域共生推進室

取材に訪れた日、はじめに案内されたのは新野クラインガルテン管理棟の下にある水田でした。

興亜エレクトロニクス株式会社からクラインガルテン管理棟の

周りには田んぼを何枚かお借りして、今後増えていくと予想される耕作放棄地の有効活用について試行錯誤を始めました。

まず今年栽培したのは「白毛餅米^{もちまい}」です。白毛餅米はコシヒカリよりも背丈が高く、上伊那で主に栽培されている古代米の品種です。背丈が長いので、茎の部分から細工用として利用できることと、収穫した餅米とわらの両方が利用できるメリットがあります。

一方、背丈が高い分、倒伏しやすく、地面についてしまうとカビが発生して商品にならなく



今年初めて白毛餅米を栽培した水田

なってしまうというデメリットもあります。

現在、地域共生推進室では、クラインガルテンの近くの工場の一角をお借りして、わらを利用した製品の製作を行っています。実際には、「しめ飾り」「猫つぐら」「円座」「こも」のような日常品を製作し、製品は飯島町の会社を通じて販売しています。

製作しているのは興亜の社員で、飯島町でわら細工を製造・販売している会社の職人の元にか月ほど通い技術を学んだそうです。学んだあとは実際に阿南町の工房でひたすら製品を作り技術を上達させています。「習うより慣れる」です。

わら細工を製造する工程を見せただくと、わらを同じ長さで切って結んだり、縷^なったりと工程ごとに分かれて計5〜6人程度で作業を行っていました。



わら細工を製作している興亜の社員

現在、わらの多くは飯島町から取り寄せているので、今後は全て阿南町産の白毛餅米やコシヒカリで賄いたいとのこと。

興亜がお借りしている農地では白毛餅米以外にもセンブリの試験栽培を始めました。センブリは木曾にある製薬会社に出荷予定で、今後は栽培面積を拡大することのできる農地にはトウモロコシなど、様々な作物を栽培

し、試行錯誤しながら収益が出る作物の栽培を目指しています。新野地区は比較的なだらかですが、耕作する農家は減り続けており、耕作されていない水田がかなりあります。地域共生推進室のゼネラルマネージャーである小池さんは「このプロジェクトの目的は事業の新しい柱を創造するとともに地域の雇用を守ることに、そして、農地を守ることに、この美しい農村の風景を守ることです」とおっしゃっていました。

小池さんの姿勢からは、興亜エレクトロニクス株式会社が地域貢献を通じて町の未来を見据えていると感じました。



センブリを栽培している農地

大陸流転

敗戦そして抑留8年 (24)

熊谷秋穂氏著

大根畑の警備

陸軍病院に着いて早速、検温、問診を受けた。幸か、不幸か昨日まで毎日続いていた微熱が三五度だ。「そんな馬鹿な」と思って確認したが間違いではない。不思議だ。「念のため」と医師の指示で五日間入院した。起床時と就寝前には看護婦が巡回して来て検温してくれるが、平熱で微熱などはない。日本人の看護婦だから懐かしい。若かったせい、か、まともに目を見て話が出来ない。日本人の女性は何年も見ていないので、まぶしさを感ずる、純情そのものだった。

「退院して様子をみよう」

主任医師から退院の許可が出た。「北満の鉄嶺に戻ることになるんだらうか」と病気が治ったとはいえ、心から喜ぶことが出来ない。不安があるのが偽らざる俺の心境だ。

「北満には帰りたくない」の本心であった。

退院の支度をしていると、兵站

部の幹部が来て、「ハルピン郊外に生産隊があるから勤めなさい。紹介するから」と命じられた。

いとも簡単に部隊が変わったり、勤務場所が変わったりで、八路軍の組織は一体どうなっているのか。面白い。幹部の説明では「どこでどんな勤務に就こうとも、革命のためであり、すなわち人民のために服務することに変わりない」とのことだった。

意味は理解することが出来た。おかげで北満の鉄嶺生産からは逃れることが出来たから、ありがたかった。

ハルピンの生産隊は、張班長と原政男さんと俺の三人だけだ。

交通量の多い国道に面した一五ヘクタールの畑に大根を作付けした。前任の隊員が作付けしたものを、収穫前に盗難に合わないように警備することが、俺達生産隊に課せられた任務の内容だった。

中国人は、生の大根を引き抜いてそのまま好んで食べる。二本も三本も盗んで素早く馬車を駆らせて逃げて行くのを昼夜を問わず三

人が交代で不寝番で警備するのだ。馬車から降りて大根畑に入ると、容赦なく「ダン、ダン、ダン」と実弾を発射して威嚇した。すると大根は盗らせずに馬車を駆らせて逃げ去る。

あわてふためく様を見て得意になり、忠実に任務を遂行することが出来ておもしろかった。夜警で眠かったことが何よりつらかったが、収穫は間近、大根は豊作だった。盗まれることもなく、結果が良かったことに満足だった。視察に来た兵站部の幹部からも「功労賞に当たる」と褒められたほどだ。何の問題もなくて良かった。無事、任務を完了した。

九月中旬、霜の降る前に大根の収穫を他の部隊に任せて、再度、第七陸軍病院の勤務に就いた。炊事係だった。野戦軍の兵站病院だから、軍隊の後について行軍することは変わらない。乗り物は一切使わず、毎晩毎晩行軍した。雪の日、雨の日、風の日も、蒋介石国民党軍を追撃して大軍の南下が始まった。包圍作戦でチベット国境までも歩いたこともある。

三月中旬ともなると、砂嵐が襲う。チベットは雨が少ないので、乾燥した細かい砂が南風に乗って、

容赦なく猛烈に俺達の進路を阻む。今までは毎晩五〇キロメートルの行軍だったが、勝手が全く違う。二〇キロメートルくらいしか進むことが出来ない。

小さな集落で宿泊した。土を練って造られた家で、屋根も土で、天井は低い。燃料は砂漠に落ちていくラクダの糞だ。落ちていく糞は乾燥しているので、それを集めて拾って来ると大切な燃料となる。水は貴重だから、手を洗ったり顔を洗うことには使われない。「落伍すると治安が悪いので、現地人に襲われて殺される」

厳重な注意があったので、必死になって歩いた。実に苦難の行軍であったことを思い出す。



著者の熊谷秋穂氏 (写真右)

短歌と故田嶋大三さんと新野短歌会



故 田嶋大三さん

てという作業もずっとひとりです。と書いていました。

「新野短歌会」は、戦後の昭和22年に公民館事業として始められました。田嶋さんが短歌と出会ったのも、この短歌会がきっかけだったようです。

数十人の有志で毎月一回の歌会を開催し、地元の歌人故栗生健司氏が指導に当たりました。

栗生氏は、病床で妻に評を代筆させてまで指導に尽力された方で、新野短歌会が長く続いたきた原動力のひとつには、創生期に受けた栗生氏の歌に対する熱意が地熱のように残っていたからとも思います。



さて、田嶋さんとはというと、

合同歌集によれば、この頃はまだ催促されて作るという風だったようです。それでも、アララギ系の結社誌『ヒムロ』に投稿し、この頃から意識が高かったことがうかがえます。当時詠んだ歌です。

○谷川の瀬音聞こゆる炭小屋に茶の煮ゆるまでヒムロを読みぬ田嶋さんは、作歌に熱心に取組むようになっていったきっかけを次のように残しています。

「S45年頃より短稿のガリ版刷りを任されてから自分の歌がないのは何ともつまらないもので、無い頭を絞ってつじつまを合わせることにした。」

新野短歌会に深く関わるようになり、作歌が日常の一部になっていったのでしよう。

そして、「会社を定年退職し、古希を迎えたころ偶然田村三好さんとの出会いがあり勧められるままに雪嶺に入会させてもらい那須野守由さんの指導を受けながら歌への比重をやや高めたというのが本音であろう。」なんと、70歳からギアを上げてい

ったというのです。

その後『ポトナム』にも入会し歌の研鑽を積まれ、その一方で、新野短歌会を70年に渡って支えて来られたのでした。

『アララギ』は、写実的、生活密着的詩風を特長とします。田嶋さんも歌の多くに、労働や日々の生活が詠まれていきます。

田嶋さんは、合同歌集での自作の歌を、年代ごと携わってきた仕事に区分して載せています。

昭和22年から27年頃の「山仕事」、昭和33年から45年頃までの酪農の歌「牛飼い」、工場勤めの傍ら農業をしていた昭和43年から60年までの「農工一体」、退職後内職の集配をしていた頃の「パートタイマー」が当たります。

他にも、兵役についたときの経験や先立った友への「鎮魂歌」、新野の雪祭りや盆踊りと、自分の身の周りのある題材で日々気に留めたことに葉を挟むように歌を詠んでいきました。

若き日には「高城楽団」でヴァイオリンを弾き、80歳代までビデオ同好会の活動で撮影から

平成16年、新野公民館短歌会による『合同歌集 公孫樹』が刊行されました。この歌集の編纂の中心となったのは、令和2年8月8日に逝去された故田嶋大三さん、大正15年生まれ享年93歳でした。昨年の11月まで、新野短歌会の主宰として、新野だけでなく町内の短歌愛好者から投稿された歌を取りまとめ、自らワープロを打って原稿を作り、新野出張所で印刷、それを冊子に綴じ

編集までこなされていた田嶋さん。短歌会の他にも「古文書を読む会」「新野伝承会」の名簿にも名を連ね、新野公民館長を昭和63年から13年間務められた。地区の運動会で指令台から「公民館マーチ」の指揮をとる姿は、当時を新野で過ごした皆さんの目に焼き付いているはずです。

心豊かに生涯を送られた田嶋さん。今もあちらの世界で大好きなクラシック音楽を大音量で聞きながら、短歌づくりに励んでおられることでしょう。

■田嶋大三さん詠草

『合同歌集 公孫樹』より

【昭和22年〜昭和27年】

山仕事の辛さとその中でも自然の美しさなど喜びを見つけて詠まれていました。

○炭俵ひと日荷造れば爪の根はさかむけて血のにじみ出ず

○疎なる櫟林の木の間より白き仙丈岳の鮮やかに見ゆ

○茶の滾る音にまじりて小屋裏の小笹を鳴らし粉雪降りつぐ

【昭和33年〜45年頃】

酪農を始め慣れない仕事の一喜一憂が伝わってきます。

○粗飼料にせんと残し置きし桑の葉も霜厚き今朝黒く凍えぬ
○着替えしてくつろぐこの少年は

○風寒き柵に放せし乳牛どもは夕暮れとなれば交々に鳴く

【昭和43年〜60年】

工場に勤め始め、兼業農家となった暮らしぶりを詠まれています。

○農業の行方は暗く迷える吾ら工業をはじめると集い来たりぬ
○製品をチェックする時土荒れの手に沁みつきし堆肥の匂う

【昭和63年〜平成10年】

退職してからパート社員として内職の配収の仕事をされていた当時の歌。配送先の山の暮らして目を向けられている歌が残っています。

○細々と働く老らに励ましの声かけて内職の材配りゆく

【昭和20年の夏】

○兵役を疑うこともなく征きて房総に敵機迎え撃ちし灼熱の日

○玉音を聞きしは野戦の陣地なりバラックの兵舎に座して涙す

【新野短歌会が最後に開かれた令和元年11月短歌会詠草より】

○幾年月施設でくらす君からの歌で嘆きが伝わり来ぬ

○雪になやむ高原の冬は常ならん降らねば降らぬで別の不安が
○モロコシの熟れるを待つは白鼻心・鳥にきつね・耕作のひと

■新野短歌会の会員の皆様から大三さんを偲ぶ歌をお寄せいただきました

(敬称略)

佐々木 順子

○恩師なる田嶋先生思いつつ

○新野の街を通り過ぎたり三浦 とよみ

○自らの野戦の日々のありし日を語りてくれし短歌の時間に

坂井 登

○線香とマッチ棒ばかりが減っていくかける言葉は淋しさばかり

関 克

○伊豆の山渡る神々通清め豊作を願う翁も逝きて

熊谷 和子

○臥す時も葬儀のときもコロナ禍で面会参列できずが悔し

田嶋 英征

○短歌会と楽団と酒の我が師なり急な旅立ち生前を偲ばん

榊原 一男

○田嶋さんの冥福祈る洋楽や郷土芸能愛した先輩

関 忠安

○芸術も短歌も趣味で終わらせず指導しまとめ成果刻まれぬ

田嶋大三さんの生前の功績に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



新野短歌会の皆さん（「公孫樹」発刊当時）

私の趣味・自慢!

大下條 小中尾

佐々木 裕一さん



(詳細は「ササキッドチャンネル」で検索を)

どうも！ササキッドチャンネルのササキッドです！そうカメラの前で言い始めて4か月が経ちました。

新型コロナウイルスの影響で今年は色々なことが一変してしまい、日常生活においても様々な事々我慢して生活することが続いている中、自分が何か出来ることはないか？とふと思いついたのがYouTubeによる動画配信でした。

映像の製作は、高校時代から持っていた一つの夢でしたが、結局チャレンジすることはありませんでした。

しかし皮肉にも新型コロナウイルスによる異常事態をきっかけに夢を思い出した38歳のおじさんがYouTubeで好きなことをやって楽しんでいきます。自分が好きな事をやる動画以外に、地元のお祭り青年の仲間たちと「三郷レンジャー」という自作の当地ヒーローを動画にして地元の活性化のための活動もしていきます。これからの時代、動画の需要はさらに高まってくると思っています。私はまだまだ勉強中ですが、この動画配信の知識やスキルを生かして、いつかは町全体の活性化のためにも貢献できればと考えています。

もし良かったらYouTubeで「ササキッドチャンネル」を一度ご覧いただき、ご意見をドバイス頂けると嬉しいです。それじゃまた、次の動画でお会いしましょう！バイバイ!!



地元のご当地ヒーロー「三郷レンジャー」

私の夢

和合小学校5年
篠崎 いちろさん



私は、将来イラストレーターになりたいなと思っています。私は昔から絵を描くことが好きでした。学校から帰ったら、必ず絵を描くか、塗り絵をしていました。

私は色を塗ることも好きなので、コツコツと色ペンを集めています。今までに自由帳8冊は書いたと思います。最近ハマっていることは、自分が昔描いた絵と今描いている絵を見比べることです。「こんな絵を描いたんだ」と思いながら、整理しています。すると、だんだんとまとまな絵になってきていることに気が付きました。

これからもたくさん絵を描いて、将来の夢に近づきたいと思っています。

今は恥ずかしくてあんまり人に見せられないけど、将来はもっとうまくなって多くの人に笑顔になってもらえるような絵を描きたいです。

フレッシュギャルはあなた



大下條 深見
村松 祐奈さん

・あなたが今やっていることについて教えてください

今年の8月から富草小学校で支援員としてお世話になってます。初めてのことでわからないことだらけですが、優しい子どもたちや先生方に助けられながら日々楽しんで勤めさせていただいています。

・これからやりたいことは何ですか

和菓子が大好きなので、京都に行って甘味処巡りしてみたいなと思っています。今は京都へ出かけることはできませんが、下伊那には素敵な古民家カフェがたくさんあるので、ぜひ巡ってみたいです。

阿南クロカン陸上記録会 記録

○小学生低学年の部 (1000m)

順位	名前(敬称略)	所属	記録
1位	勝野 翔 壘	富草小	3分56秒
2位	村山 万里	富草小	4分5秒
3位	城田 心 菜	大下条小	4分20秒

○小学生高学年の部 (3.5km)

順位	名前(敬称略)	所属	記録
1位	城田 陸 斗	大下条小	15分53秒
2位	城田 溪 斗	大下条小	16分8秒
3位	宮脇 拓 実	大下条小	16分33秒

○女子の部 (3.5km)

順位	名前(敬称略)	所属	記録
1位	城田 香 菜	北條	17分1秒

○中学・高校・一般の部 (5.5km)

順位	名前(敬称略)	所属	記録
1位	ローガン・マイケル・フィリップス	ALT	21分59秒
2位	佐々木 一 成	THE よせあつめ	24分8秒



阿南クロカン陸上記録会

12月5日(土)

できごと
(11月・12月)

富草グラウンドにおいて、新型

コロナ感染症対策として、検温や開・閉会式の省略、更衣室は用意しないなど、最大限配慮して行いました。

大会の目的は冬場の体力、走力アップとともに、阿南町を元氣な町にするということ、今年で3回目を迎えました。

参加した選手は30人で、春からしっかり走り込んでいる陸上教室の生徒の粘り強い走りが目立ち、今後に大きな期待を持たせる貴重な場となりました。

今後も定期的に開催し、定着することを目指します。

結果は左のとおりです。

◆中止となった行事

1月～3月

○新野公民館展示会

(例年1月中～下旬に実施)

○富草公民館囲碁ボール大会

(例年1月下旬に実施)

○天龍梅花駅伝

(例年2月中～下旬に実施)

○阿南カラオケ歌謡大会

(例年2月下旬に実施)

○和合公民館演芸大会

(例年3月初旬に実施)

◆未定となっている行事

1月～3月

○町民体育大会冬季大会

(例年1月下旬)

2月上旬に実施)

○新野公民館卓球

バドミントン親睦試合

(例年2月ごろに実施)

○南部地区公運協芸能交流会

(例年3月初旬に実施)



あの人この人



大下條 川田
勝本 作一さん

川田というだけあって、ひこばえの田んぼが広がる初冬の青空がまぶしい日、南天の実があざやかな庭先におじゃまし、会合に行かれたご主人のお帰りを待ってお話を聞く。

昭和37年から2年間、飯田職業訓練所で建築基礎を学び川路の工務店に弟子入りをした。しかし、ちょうど三六災害があり、水没した住宅などの解体作業ばかりをして、大工の仕事はあまりしなかった。でも今は、その経験が役に立っていると思っっている。その後阿南に戻り、近くの工務店で働き独立する。67歳の時、仕事仲間が亡くなったため、本業を辞める決意をする。

そして仕事のない日々をどう過ごすかを考えた時、結婚前に二人で富士山に登った事を思い出し、登山

を始める。百名山に名を連ねる山をいくつも登破し、忘れられない思い出を生き生き

と聞かせてくれる。

(それらの山行を原稿用紙2枚にびっしり書いてあり、山への思いが伝わる。)

同じ頃、昔は川田にも水車小屋があった事を思い出し、自分で作ってみようと、知り合いの人に教えてもらい、岐阜県山岡町の道の駅に行き、いろいろ見て来たそうだ。そして、水車だけは作れるようになったが、小屋もあればと思い、飯田の大工さんが作ったものを思い出しながら作ったそうだ。

そこは持ち前の大工の腕、立派なものを作り上げた。現在、ご自宅の玄関や作業場に数点飾られている。

とても精巧にできていて、水車も挽くためのトンキラも2機、実物そっくりにできていて、囲炉裏には火が燃えている様子までが再現されている。細かい所まで、さすが大工さんである。

年をとっても、手を使うことや、物を設計することは頭を使うので、ボケ防止になるよとニコニコされる。

誰もが願うボケない余生だ。



作業場に飾られている
勝本さんの作品

うちのホープ



新野 原町
下平 洗弥さん、玲菜さんの
お子さん 杏珠ちゃん

こんにちは。私の名前は杏珠です。新野保育園のチューリップ組さんです。

私は、保育園のブランコとすべり台が大好きです。いつもお母さんがお迎えに来たあとは、すべり台とブランコでしばらく遊んでから帰ります。他のお友だちもブランコで遊んで帰るから順番に遊ぶようにしているよ。最近、お兄さんお姉さんの

まねをして、ジャンゲルジムに登る練習中…。まだまだゆっくりだけど、一番上までは登れるようになりました!!

保育園のお兄さんお姉さんを見習いながら日々成長中です。私も年下の子たちに、絵本を読んであげたり、くつ下を履かせてあげたり、お姉さんらしいことをしたり…。そんな私も、十二月にはお姉ちゃんになります!!お母さんのお腹には赤ちゃんがいて、毎日赤ちゃんとお話しているよ。早く抱っこしてあげたいな。赤ちゃん元気に産まれてきてねー!!



病院の待合室で母親に抱かれた幼児の近くに私が座ると、しばらくして幼児と目が合いました。あやすように微笑むが、なかなか笑ってくれませんでした。原因は顔の半分を覆っているマスクではないかと思ひ、目尻を二度三度と大げさに上下すると笑ってくれたのです。マスク姿だとコミュニケーションがこんなにも取りづらいか。

目は口程に物を言うと言います。相手の目を見ながらお互いの気持ちを伝えましょう。